



(公財) 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>

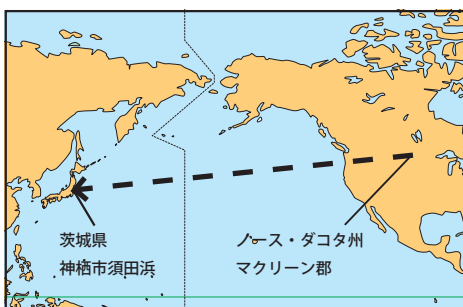
北アメリカに生息する海鳥のアメリカコアジサシが 日本で渡来したことが「鳥類標識調査」によって 初めて確認されました

- 山階鳥研の茂田良光研究員らは2014年7月18日に、茨城県神栖市須田浜海岸でコアジサシの標識調査を実施中、アメリカコアジサシ2羽を捕獲しました。
- 1羽は日本以外の国の標識調査の金属足環とカラーリング（色足環）が装着されており、調査の結果、この個体は2012年7月5日にアメリカ合衆国ノース・ダコタ州マクリン郡で雛のときに捕獲され足環をつけて放鳥された個体であることがわかりました。
- 放鳥地から回収地までの距離は直線距離にして8,934kmとなります。
- アメリカコアジサシの記録は日本ばかりでなく、東アジア全体で初めてです。
- 本種が日本に定期的に渡来しているかは不明で、今後調査の継続により明らかになるものと思われます。
- 近縁のコアジサシに酷似することから、野外観察で本種の渡来に気づくことは難しいと考えられ、鳥類標識調査の有効性が示されました。



神栖市で捕獲されたアメリカコアジサシ。(上)アメリカ合衆国ノース・ダコタ州で足環装着された個体（足環 2451 - 20272）。(下)新たに環境省鳥類標識調査の足環 3E-08694 を装着して放鳥した個体。

アメリカ合衆国の足環（上）を装着していたアメリカコアジサシの翼（中）と尾（下）。腰と尾はコアジサシでは純白だが本種では灰色がかかる。コアジサシとの違いとしてはほかに、鳴き声が非常に異なることが挙げられる。



アメリカコアジサシのうちの1羽の装着していた足環から判明した移動。

アメリカコアジサシ

チドリ目カモメ科の海鳥。全長 23cm。翼開張（広げた翼のさしわたし）51cm。日本に夏季に渡来して繁殖するコアジサシに近縁で、北アメリカと西インド諸島の砂浜海岸や干潟、内陸の河川で繁殖する小形の水鳥です。水面の上空から飛び込んで捕らえた小魚、小さな甲殻類などを餌にしています。冬には中南米の海岸部で越冬します。従来、コアジサシ（ヨーロッパと北アフリカ、東～東南アジアに分布）と同種とされていましたが、近年は両者は鳴き声と形態が異なることを理由に別種として扱われるようになりました。

鳥類標識調査

カスミ網などを使って、鳥類を捕獲し、個体識別用の足環を装着して放鳥するもので、鳥類の渡りや寿命などの様々な生態を明らかにする目的で実施されており、近年では、鳥類生息状況のモニタリングのためにも活用されています。日本では現在、環境省の委託事業として、山階鳥類研究所が、多くのボランティアの協力も得て実施しています。1961 年以来足環を装着して放鳥した 500 万羽以上のデータが蓄積されています。

鳥類標識調査については下記のウェブページもあわせてご覧ください。

鳥類標識調査（環境省生物多様性センター）

<http://www.biodic.go.jp/banding/index.html>

渡り鳥と足環（環境省／山階鳥類研究所）

http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa_index.html

鳥類標識調査 仕事の実際と近年の成果（山階鳥類研究所）

http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/news/hyoshikiken_news_index.html

※この捕獲記録については、2015 年 9 月 18～21 日に兵庫県立大学で開催された、日本鳥学会 2015 年度大会において、口頭発表を行いました。

※このプレスリリースに使用した写真のデジタルデータをご希望の方は下記までご連絡ください。

本件についての問い合わせ先

（公財）山階鳥類研究所 保全研究室 茂田

広報主任 平岡

Tel: 04-7182-1101 FAX: 04-7182-1106